



「たまたま」が最多理由

「収蔵品管理システムを導入した理由は」弊社ユーザ館によく質問させていただくのですが、どんな答が多いと思いますか？ 必要だったから、紙の台帳管理が限界だったから…ではありません。実は意外な「理由」が多数を占めていました。

昨年、アートドキュメンテーション学会の年次大会で、研究発表の場をお借りしました。アートドキュメンテーションとは「収蔵品の情報を記録していくこと」で、私たちの商品である収蔵品管理システムは「ドキュメンテーションの道具」ということになります。

発表を行うにあたり、システムまわりで皆様が関心をお持ちの話題は何だろうと考えました。それは「他の館は情報管理についてどう考えているのか」ではないか。というわけで、これまでに実施して来た 50 以上のユーザ館へのインタビューをもとに、各館の導入動機についてまとめてみたのですが…意外な結果に唖然としてしまいました。

実は「たまたま予算がついた」が圧倒的多数…。

インタビューではシステム導入のきっかけをお聞きしています。当然、「業務上必要だから導入した」という回答が多いと思いきや、何とわずかに全体の 1 割ほど。最も多かった理由は「開館時に予算がついたから」。つまり、大きなお金が動いた時に組み込んでもらったということ。

それ以外には「市民の情報公開への要請に自治体側が予算をつけてくれた」「雇用対策などの補助金事業があったので活用した」といった回答が多数。つまり、業務に必要なはずの道具なのに、その必要性から予算が確保されたというケースはごく少数で、「たまたま別の理由で予算がついた」という例のほうが圧倒的に多いのです。

こうした館はラッキーでしたが、一方では、運営や業務の改善を真剣に考えた結果の予算要求が通らない館も多数存在します。導入の第一理由は「幸運」…発表用の原稿を作りながら、無力感を覚えずにはいられませんでした。

極端すぎます、2つの自治体の運営方針。

情報システムに限らず、予算を要求するという行為は、なかなか難しいものです。事業の意義や効果、担当者の熱意などが不可欠ですが、それだけでは動かしがたい「事情の壁」に頭を悩まされる館も少なくありません。

たとえば、こんな例もあります。大都市の通勤圏に含まれる中規模市の、2つの弊社ユーザ館。両者の自治体の予算規模に大きな差はありませんが、片方は学芸課には十数名のスタッフがいて、データ入力のアルバイトを雇用するなど、まるで県立施設のような充実ぶり。

これに対して、もう一つの館の学芸員は、何と 1 名のみ。来館者の対応から展示会の企画、収蔵品現物の管理、印刷物のデザイン作業や発注業務までをこなしておられるため、ほとんど席に座るヒマもないほどの忙しさ。

各自治体・各館によって方針がありますので、一概にどれが良いとは言えません。とは言え、後者の館がシステム導入を考える余裕がないことは確実。本来は、職員数が少ない館ほど、IT が支援しなければならないのですが…。



陣容の整った館に、他の苦しんでいる館のお話をすると、「ウチはそんなに恵まれているのか」と驚かれるケースが少なくありません。そして「できる限りの協力は惜しまない。救済の仕組みを考えてあげてほしい」との励ましも。

現在、鋭意準備中の「学芸員オンライン」を無料登録制のサービスとしたのも、こうした皆様の事情やご厚意を総合的に勘案してのものなのです。